

＜遊び・情熱・そして目的を持て＞



シンガポールのヘルスケアの展示会に参加する機会があり、大変驚いたことがあります。まず、①若手がビジネスをやろうとしている。②展示会で、自分と組んでビジネスをやろうという提案を多くの方がぶつけてくる。③オーストラリア、ドイツ、タイ、インドネシア、マレーシア、香港、台湾と多くの方々が来て、それぞれのビジネスの提案をしてくる。日本の展示会とは大きく異なる。運営のやり方、人の集め方、VIPへの配慮など、様々な点で、見習うべきことがあると思う。

シンガポールの国としても、パスポートや身分証明書の番号一つで、すべての情報を管理しており、引っ越しをしても、手続きがほとんどいらないなど、完璧なデータベースができているうえに、監視カメラが多く設置されており、財布を落としても、3時間は、その場所にあるといわれるほど、セキュリティ・治安がしっかりとっている。ごみのポイ捨ては罰金、麻薬を持ち込むと死刑、売春、買春の犯罪を犯すとむち打ち刑、交通事故は逃げられないので潔く出頭する。

IoTの普及で、様々な個人データも含めたビッグデータが集まる時代において、新しい社会ができているのかもしれません。ET・IoT展でのET×ETにおけるエッジテクノロジは、新しい社会を作るうえで大変重要なトレンドです。今年のET・IoT展はこのような時代の変化が見える形で運営が進んでいます。期待してください。

ET事業本部は、JASA最大の事業であるEmbedded Technology、IoT Technologyの企画運営を推進する部隊です。前号に続き運営メンバーをご紹介します。

展示会の歴史は長く、1987年にツールフェア'87として、池袋サンシャインシティで開始され、その後、1988年マイコンシステム&ツールフェア(MST)に展示会名称変更、1997年では展示会場を東京ビッグサイトに変更し、来場者が12,000名を超えるました。2002年にEmbedded Technology／組込み総合展示会(ET)と名称を変更して、パシフィコ横浜に場所を変えました。2016年に現在のEmbedded Technology 2017／組込み総合技術展、同時開催してIoT Technology 2017／IoT総合技術展となりました。2018年度から3か年計画を作り、エッジコンピュータを取り込み、ET×ETをスタートしました。この計画で3年後、展示会を年率20%程度で成長させようとしています。



展示会の専門業社は、時折々のキーワードで、展示会を開催、また、様々な業界の展示会を一齊に開催して、来場者の数が多いことを宣伝していますが、名刺の数が多くなっても実際のビジネスになるケースが少なければ、展示会の意味がありません。業界としての展示会の立ち位置と、その存在意義を高められるようにET事業本部が活動しています。

JASAのET事業本部とアライアンス先の株式会社JTBコミュニケーションデザイン(JCD)様の協業で展示会は運営されています。

す。JASAの専門知識、人脈、業界と、展博の専門家であるJCDさんのノウハウを融合することで、業界展示会としての位置づけを確保し、発展させています。展示会のメインのカンファレンスに関しては、業界、プレス等の著名人にご参集いただき、講演プログラムを作り上げているのです。



最近、スタートアップ企業のピッチイベントが盛んになっており、目にすることもあると思います。事業の紹介、顧客プレゼンなどにも大変参考になると思います。学校で、ダンスの授業が始まると、巷でのダンス競技会、ダンススクールが乱立し、スタイルのいい子供が増えました。ピッチイベントは、学校でのビジネスを勉強するうえで大変参考になりますし、さらに、ビデオを使ったり、小道具を使ったり、芝居がかつてたりと、とにかくかっこいいです。

ピッチイベントは、短い時間で、自分を理解していただき、惚れでもらって、投資家に数億円出資させるプレゼンテーションです。ほとんど、一発勝負。これを通らないと深い議論に進めないので。

一般的な3分のピッチイベントの目次は次のようなものです。

1. 自社の紹介
2. 製品あるいは売りたいIPの紹介
3. 他との差別化
4. チーム
5. グローバル戦略

投資家も、場慣れしていますから、ちょっとやそっとでは食指は動きません。

意外なのは、チームとグローバル化について、多く質問が出ます。技術的な質問ができないからかもしれません、チームでスピード感ある運営ができるか。ファイナンス、キャッシュフローの管理がしっかりとできるか。それができるために、技術者は当たり前ですが、マーケッター、経営管理、顧客への販売チャネルを熟知している営業などでチームが組めているか？ 次に、市場を考えるとグローバルでの競争力の有無、あるいは戦略をしつこく質問されています。しかし、面白いことに、ピッチイベントがすべてではなく、その創造性、意欲、知識の豊富さ、人脈なども感じ取っており、事業を進める中での変化を的確に判断して、方向をスピード感をもって変えられる経営者かを見ています。やはり、見るのは人間性(計画はそのまま実行できない。ピボットができる柔軟性が必要)です。

展示会では、ビジネスマッチングだけでなく、人材育成にも多くの施策を実施しております。



ETロボコンWG
星 光行氏

技術者教育が目的のETロボコン。実行委員長も14年になる。会社ではH/WとS/Wの二刀流で新入社員の技術教育を担当。

●運営への思い

参加チーム増に向けて、今年から競技内容

を大きく転換。働き方改革で会社での開発時間の確保が難しい中、左右対称のコースにしてどちらかのベストタイムで競う。このルールによって開発工数が半減。参加チーム増を狙う。

日本に、OS-9を普及させた星さんが、今後の人財の育成にUML、モデルベーストデザインなどの、今では、自動運転の設計開発に必須な人財育成が必要だと、18年前から立ち上げたロボットを使った教育イベントです。今では、毎年1000名程度のエンジニアの登竜門になっています。

長い歴史の中で、企業チームと学生チームが仲良くなり、その会社に就職したとか、ETロボコンで入賞しましたと面接で言って合格をもらったり、出会ったエンジニア同士で結婚したりと、エピソードは絶えません。今では、全国地方大会が実施され、IPAの理事長も応援してくださり、毎回見学に来られています。当初は企業中心でしたが、現在は、学生の比率も多くなり頼もしい次第です。

ET・IoT展 運営会社



(株)JTBコミュニケーションデザイン
松井 高広氏

展示会の国際化を目指し、海外主催者との連携推進中。

●運営にあたっての意気込み

世界の展示会を巡って、ここ1~2年のイノベーションの速さは目を見張るものがあり、日本が取り残される危機感を感じています。

展示会はリアルなビジネスのプラットフォームであり、人・モノ・情報が集まるETブランド構築を進めてまいります。

25以上の展示会の運営を担当し、事故もなく成功させている松井さんです。よく海外に出られて、海外の展示会に視察をされています。2月のEmbedded World(ドイツ)では、ET展示会との相互乗り入れなどの検討もされており、グローバル化も進めていただいている。

2020年はオリンピックの関係で、展示会が中止、大幅な日程変更など大変実施しにくい状況の中、先手先手の打ち手で展示会を無事開催できる計画です。

当協会にとっても、大変重要なパートナーであり、常に、激論を交わしていますが、今後とも、よろしくお願ひいたします。

ETロボコン、 IoTイノベーションチャレンジ運営会社



(株)アフレル
代表取締役社長
小林 靖英氏

福井県福井市出身。日本電装(現・株式会社デンソー)代理店にて車載コンピュータ・電装品回路エンジニアを経て、永和システムマネジメント入社、金融システムエンジニア20年活動後、教育未来支援事業部を立ち上げ事業部長に就任。21世紀からは教育支援事業と多くの教育ロボコン企画運営を手がける。

2006年株式会社アフレルを設立、代表取締役社長に就任。

JASA理事・北陸支部長

ETロボコン本部共同企画委員長／WRO (World Robot Olympiad)国際委員会理事／NPO法人WRO Japan理事／水中ロボコン2015 in JAMSTEC 優勝／情報処理学会会員／こどもプログラミング・サミット主催委員／ふくいブランド大使

●運営にあたっての意気込み

18年間にわたって、ETロボコンの運営を担当し、昨年より、IoTイノベーションチャレンジの立ち上げにチャレンジしています。

全国の組込み人財の育成に関して、先生方、ボランティアの方々の力を借りしながら、“感動と信頼そして成長”を理念に推進してまいります。

ETロボコンでは、多くのスポンサーのご協力をいただき、また、先生方、ボランティアの方々のご協力をいただき約1,000名の組込みエンジニア育成という大きな成果を出しています。

さらに、今回立ち上げたIoTイノベーションチャレンジは、2025年の崖に対応できるビジネスを創生できる人財を育成しようという大変重要な試みだと考えております。

これらに、献身的に運営を担当していただいている小林様には大変感謝しております。

今後、人財育成は、大変重要なテーマであり、より良いものを作り上げるために、切磋琢磨して拡大していきたいと考えています。よろしくお願ひいたします。



あとがき

展示会において、話題性のあるものをとにかく集めて、継続性がない展示会が増えています。

米国のCES、ドイツのEmbedded World、ハノーバーメッセ、台湾のComputex・InnoVEXなど組込み、モノづくりの展示会があり、日本からも展示しておられる会社があります。ET事業本部では継続性を重んじながら、技術トレンド、ビジネストレンドを摸索、議論できる場を整えることで、業界の将来を皆様方と一緒に創造していることをご理解いただき、世界に情報発信ができる展示会にしたいと考えています。

現在、Computexの主催者であるTCA(台北市コンピュータ協会)とは、定期的に交流会を持ち、展示会イベントのアイデア出し、相互で出展者の募集、講演会などを実施しています。また、日本からの視察も近畿支部、中部支部などから毎年実施されており、若い社員がグローバルな視野を持つてもらうための研修にもなっています。世界のスピード感、製品づくりの熱意などを体で感じられれば良いと思います。積極的な参加をお願いいたします。

JASAが主催の業界展示会です。昨年のグローバル展示では、イスラエル、フランスなどの企業の参加もあり、彼らの印象は、“こんなに、エンジニアが来て、技術的な議論ができる展示会は初めてだ。来年はエンジニアもつれてきたい。”と言われていました。ぜひ、会員の皆様も出展していただき、日頃会えない会社、エンジニアとの交流を持っていただければと思います。事業の拡大を推進し、業界を盛り上げていただければ幸いです。